

1. 実況上の着目点

- ① アリューシャンの南に低気圧があって、この低気圧から前線が日本の東にのびている。本州付近には下層暖湿気が流入し、東日本では、1時間10～20mmの雨量を解析。
- ② 台風第13号が華中において、西進。
①の高気圧と台風第13号との間で気圧の傾きが大きくなっており、南西諸島ではやや強い風が吹き、南西諸島～西日本では、うねりを伴い波が高くなっている所がある。
- ③ マリアナ諸島付近には、大型の台風第14号が西進。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の前線は、17日は日本の東に停滞し、18日以降は日本の東～日本海西部へのび出す。西日本から東日本では、19日にかけて強い日射や、前線に向かって流れ込む下層暖湿気の影響により、大気の状態が不安定となり、雷を伴った激しい雨や非常に激しい雨が降り、大雨となる所がある。西～東日本では19日にかけて、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒し、落雷や突風、降ひょうに注意。
- ② 1項②の台風は、17日朝には熱帯低気圧に変わる見込み。南西諸島～九州付近では熱帯低気圧に向かって流れ込む下層暖湿気の影響により、17日は大気の状態が不安定となる。南西諸島～九州付近では17日は、落雷や突風に注意。また、南西諸島～西日本では17日は、うねりを伴った高波に注意。
- ③ 1項③の台風第14号は、日本の南を北西進し、18日午後には南西諸島に接近する。その後、19日には東シナ海上で熱帯低気圧に変わる見込み。南西諸島や九州南部地方では、台風本体や台風周辺から流れ込む下層暖湿気の影響により、雷を伴った激しい雨や非常に激しい雨が降り、大雨となる所がある。南西諸島や九州南部地方では18～19日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒し、落雷や突風、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。また、南西諸島では、18日は台風の接近に伴って非常に強い風が吹いて、波が高くなり、大しけとなる所がある。うねりを伴った高波に警戒し、強風に注意。西日本太平洋側では19日にかけて、強風やうねりを伴った高波に注意。
- ④ 西日本から東日本は、18日にかけて、500hPa 5940mの上空の高気圧に覆われて、晴れて気温が上昇し、猛暑日となる所がある。熱中症に注意(熱中症警戒アラート参照)。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

- ### 4. 防災関連事項 [量的予報等]
- ①雨量(06時からの24時間):多い所(100mm以上)はない。
 - ②波浪(明日まで):奄美・沖縄6、九州南部5、小笠原4m。
 - ③高潮(明日まで):大潮の時期。南西諸島～東日本では注意報基準を超過する所があり、九州地方では警報基準に近づく所がある。

5. 全般気象情報発表の有無 「台風第14号に関する情報(総合情報)」を05時頃に発表予定。